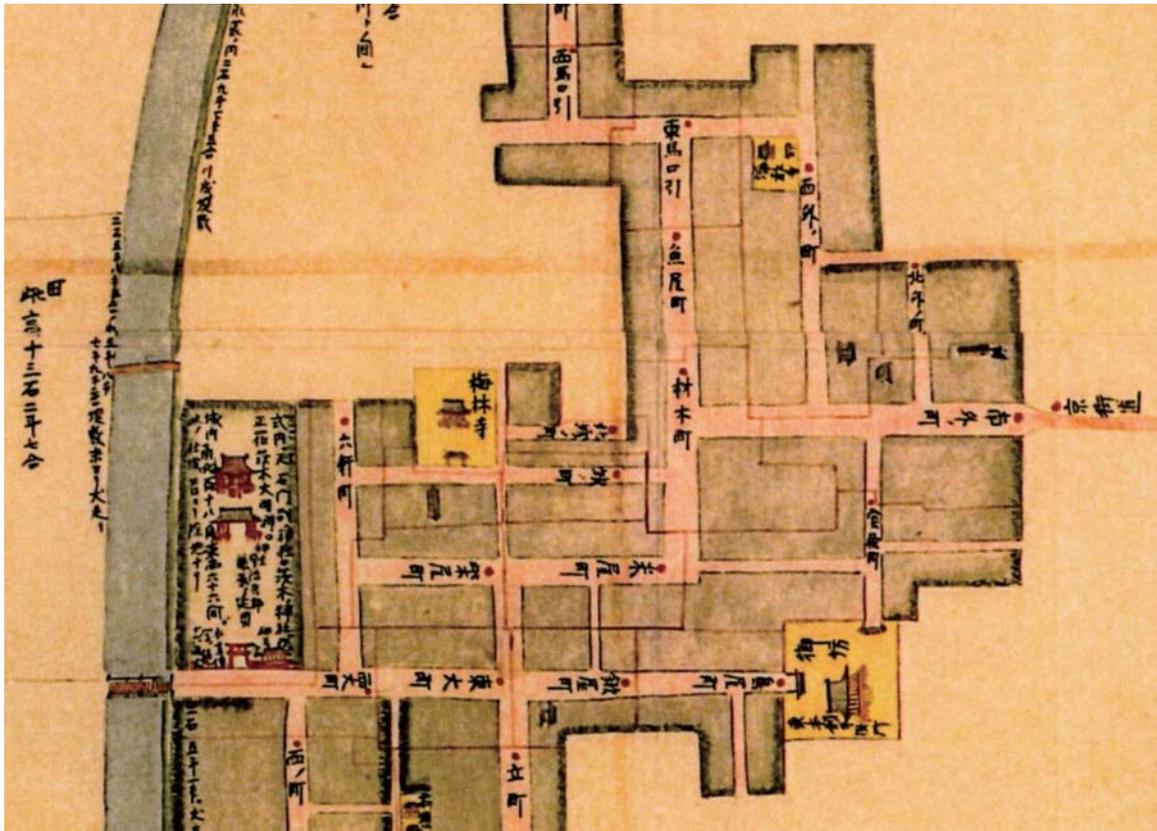


## 茨木城下町の復原的研究

所員 南出 眞助

(国際教養学部教授)

2016年9月15日(木)の月例研究会において、「茨木城下町の復原的研究」と題した研究発表を行った。内容は「追手門学院大学文学部紀要」28(1993年)に発表した論文「近世茨木町の形成過程」を骨子とし、その後の知見を加えたものである。近世の茨木は「在郷町」であったが、その空間構造は基本的に戦国期城下町を踏襲するものであった。今回の発表では近世絵図や古文書、明治期の地図、空中写真などを用いて景観を復原してゆく方法も含めて説明した。なお本発表に他の資料を加え、茨木市立文化財資料館主催の「絵図で楽しむ茨木-江戸時代の村を巡る-」展の一環として、2016年12月10日(土)に「茨木城下町の形成と近世在郷町への変容」と題する特別講演を行い、研究成果の地域還元と北摂総合研究所の広報にも努めた。



享保18年(1733)「摂津国島下郡茨木村之地図」(図中央、梅林寺北方の空白部分が旧城郭地区)  
(原図は国立公文書館内閣文庫所蔵、『新修茨木市史』第五巻史料編近世、2009年所収)